

# 有害化学物質のない世界への取組 は前進しているのか？

—第2回国際化学物質管理会議 (ICCM2) 報告—

有害化学物質削減ネットワーク  
村田幸雄

# もくじ

1. はじめに: 国際化学物質管理会議とその背景
2. SAICMの概要
3. 第2回国際化学物質管理会議 (ICCM2)  
議題: 何が話されたのか?  
結果: 何が決まったのか?
4. ICCM2とNGO
5. 評価: 有害化学物質のない世界へ前進したのか?
6. 2020年に向けて
7. おわりに: 2つのシナリオ

# 1. はじめに

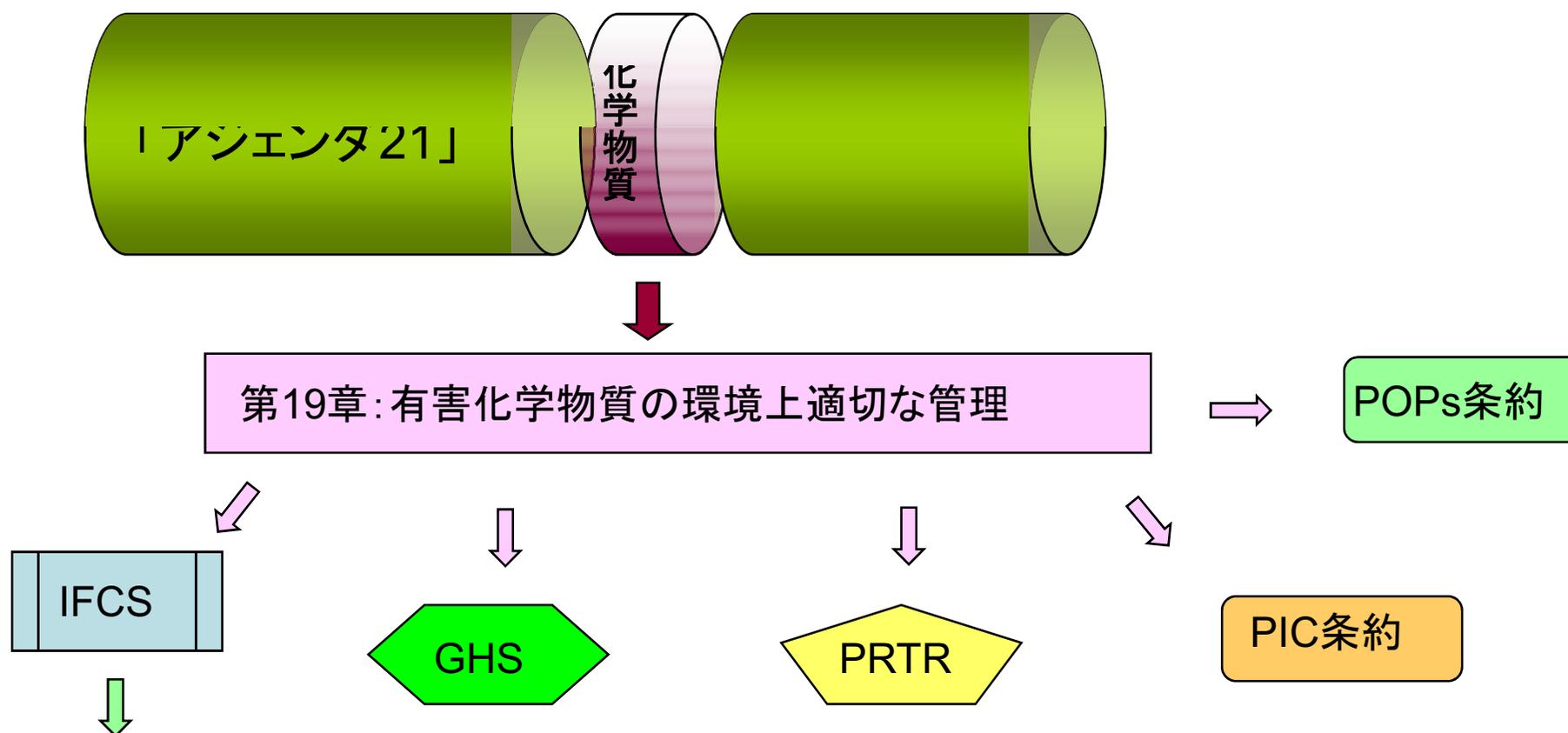
## 国際化学物質管理会議 (ICCM) とは？

2006年に「国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ」(SAICM)を策定するために第1回会議 (ICCM1)がドバイで開催された。その後は、進捗を評価し、適切な対応を検討、推進するためにSAICMが目標とする2020年までの間、2009、2012、2015年に開催される。

# SAICMに至る国際的な流れ-1

1992年 国連開発環境会議(リオ・サミット)

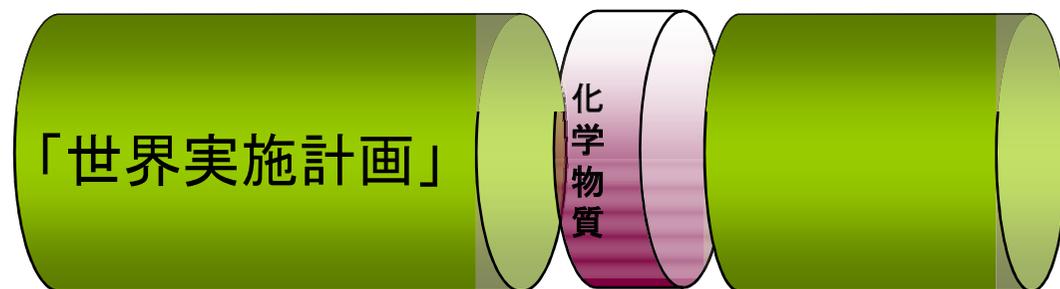
成果: 持続可能な21世紀に向けた課題と対応方針



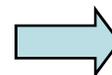
# SAICMに至る国際的な流れ-2

## 2002年 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (ヨハネスブルグ・サミット)

成果:リオサミット以降の成果を土台に、残された目標を実現するための計画

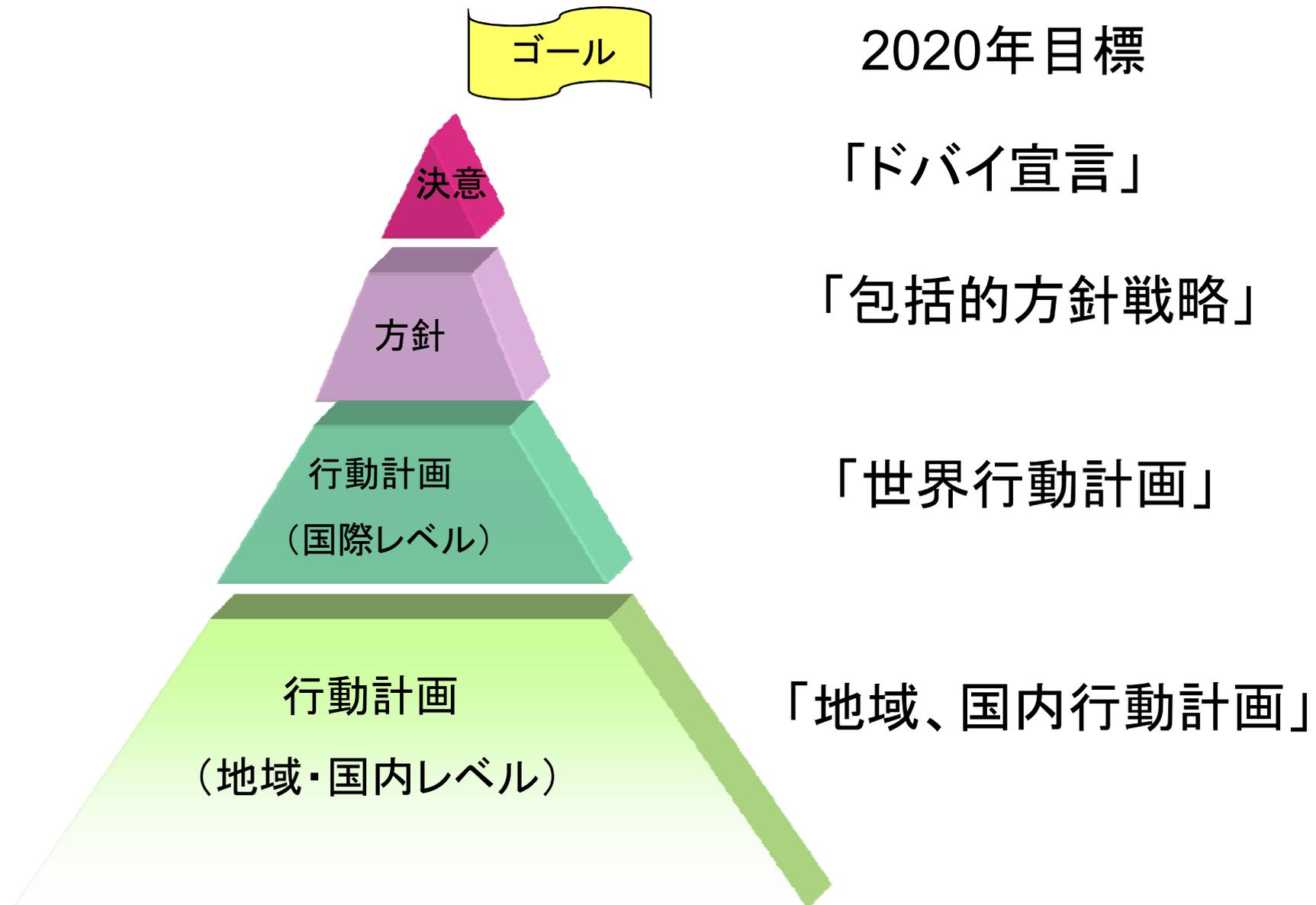


III 持続可能でない生産消費形態の変更  
第23項「…化学物質が、人の健康と環境にもたらす著しい悪影響を最小化する方法で使用、生産されることを2020年までに達成することを目指す。」



ICCM

## 2. SAICMとは？ : 三つの文書



## 2. SAICMとは？

### 1) ドバイ宣言(ハイレベル宣言)

世界各国、各機関、団体等の責任ある立場の人々による現状認識、2020年目標達成への決意を含む、30項目からなる宣言

- 化学物質の適正管理は持続可能な開発に必要不可欠
- 世界の環境は汚染を受けており、何百万の健康と福祉を奪い続けている
- 社会の化学物質管理に根本的な改革が必要
- 情報、知識を公衆が入手することを容易にする
- 子どもや胎児を有害な化学物質の暴露から守る
- 開かれた、包括的、参加型、透明な方法で実施 ……

## 2. SAICMとは？

### 2) 包括的戦略方針

- I 序
- II 対象範囲 ライフサイクル全般、農業/工業用化学物質
- III 必要性 従来にない強力かつ広範囲な取組が必要
- IV 目的
  - A. リスク削減 直接的アプローチ
  - B. 知識と情報 全ての関係者が入手可能に
  - C. ガバナンス 透明性、意思決定への参加など
  - D. 能力向上と技術協力 途上国等支援
  - E. 不法な国際取引
- V 財政に関する考慮
- VI 原則とアプローチ 予防的アプローチなど
- VII 実施と進捗の評価 4回のICCMと地域会合

## 2. SAICMとは？

### 3) 世界行動計画

SAICMの目的を達成するために関係者がとりうる行動についてのガイダンス文書として、273の行動項目をリストアップ

No.	作業領域	活動	行動主体 4	目標/時間枠	進捗の指標	実施の側面
1	格差を特定し、行動に優先順位付けをするための、国家の化学物質管理の評価	ナショナルプロフィールを策定し、化学物質の適正管理のための行動計画を実施すべき	国家政府 研究センター IOMC (UNEP, FAO, WHO, UNITAR, UNDP) 非政府組織	2006-2010	行動計画を含むナショナルプロフィールが策定されている。	ナショナルプロフィールの策定を支援するために創設された関係省庁間と多様な関係者からなる委員会
2	人の健康保護	知識を入手し、解釈し、適用する能力の格差を埋めるべき	産業界 国家政府 研究センター IOMC (WHO, OECD) 労働組合	2006-2020 (SAICMの検討期間ごとに成果を出すこと)	能力の格差が縮小する。	エンドユーザーに適切な形で化学物質の有害性、リスク、安全な使用についての情報の入手可能性の改善（工業製品中の化学物質を含む）及び既存のリスク評価の使用の改善

# 3. 第2回国際化学物質管理会議(ICCM2)

International Conference on Chemical Management 2<sup>nd</sup> Session

- 開催期日: 2009年5月11(月)~15日(日)
- 場所: スイス、ジュネーブ国際会議場
- 参加: 約800名 政府関係者(150カ国)  
国際機関等、非政府組織



# 3. ICCM2

## 議題：何が話されたのか

### 1) 会議運営方法

- 議長団の選出
- 手続き規則

### 2) 実施状況のレビュー

- 実施状況報告
- 報告の様式

### 3) 新規課題 Emerging Policy Issues

- ①ナノテク②製品中の化学物質③廃電子機器④塗料中の鉛
- 新規課題選定手順

### 4) その他

- 国家の化学物質管理能力強化
- 作業部会の設置
- 「世界行動計画」への項目追加
- 実施のための財政的、技術的資源等

# 3. ICCM2

## 結果：何が決まったのかー1

### 1) 会議運営方法

- 議長団の選出：議長（スロベニア）  
副議長（日本、チリ、セネガル、スペイン）
- 手続き規則：コンセンサスに達しない場合、多数決か？→ICCM3

### 2) 実施状況のレビュー

- 実施状況報告：事務局が事前に行ったアンケートに言及した程度。（アンケートに回答したのは36カ国とEU。7国際機関、11NGOのみ）
- 報告の様式案：進捗の評価のための5分野（①リスク削減②知識と情報③ガバナンス④能力向上と技術協力⑤不正な国際取引）計20の指標。
- 2011年末までに最初の実施状況報告書を作成する。

# 3. ICCM2

## 結果：何が決まったのかー2

### 3) 新規課題

- ① ナノテクとナノ物質：国、企業等に情報のアクセス、共有を求める。特に途上国等との関わりを含むナノに関する調査報告書の作成
  - ② 製品中の化学物質：ライフサイクルを通じた情報提供、アクセスの重要性を認識。UNEPを中心にプロジェクトを企画し、勧告を作成
  - ③ 廃電子機器：関係条約事務局、機関等が中心になって管理上の問題特定と評価のためのワークショップを企画する。
  - ④ 塗料中の鉛：グローバルパートナーシップ構築を支持し、ビジネスプランの策定、UNEPとWHOには事務局的作用を求める。
- 米国はPFCsを新規課題として提案したが、決議としては反映されず。

### 新規課題選定手順

ICCM開催の18か月前までに案を提出。オープンで透明性のあるプロセスで、全てのステークホルダー参加

# 3. ICCM2

## 結果：何が決まったのかー3

### 4) その他

- 作業部会の設置：とりあえず **Open-ended working group** を設置し、2011年に会合を持つ。その後についてはICCM3で決定
- 世界行動計画の改定：追加提案の要件、手順などが決められた。提案はステークホルダーであれば個人、団体何れも可
- 財政的、技術的資源等：途上国、経済移行国のSAICM実施には資金と技術が不可欠であることを再確認。QSP信託基金を2013年まで延長。UNEPは日本を含む信託基金への主要ドナーにSAICM Awardsを表彰

# 4. ICCM2とNGO

SAICM推進に欠くべからざる存在であり、ICCMにおいても数多くの貴重なインプット等を通じ貢献

- 特定の国家の利害にとらわれない立場
- 国家間では見落とされがちな、隙間をカバー
- 世界各地の具体的プロジェクト等を通じ現場レベルの問題を把握
- 先進国、途上国、経済移行国まで世界全体をカバーする国際的ネットワーク (IPEN)
- 高い専門性(国際法、環境化学等)と経験(CIEL、EHFなど)



## IPEN会合

毎朝、NGOルームにて、前日の報告、当日の予定、情報交換等を行う

# 4. ICCM2とNGO

## 情報提供



ICCM2会場ロビーにおけるNGO展示  
ブース: 関連報告書、パンフレットなど



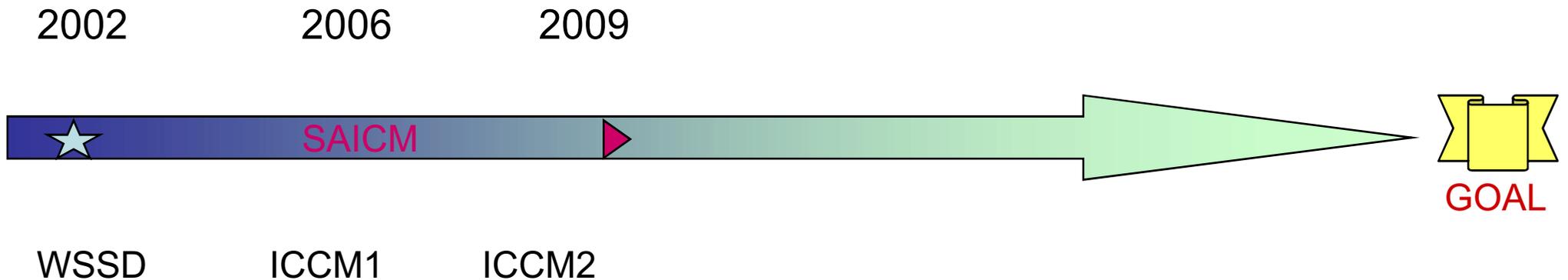
# 5. 評価：世界は前進しているのか？-1

## 参加者による評価

- 「設立段階を超えて、新たな挑戦と実施の加速への段階へ移行。SAICMの進化にとって一つの大きなマイルストーン。」(SAICM事務局、Matthew Gubb)
- 「いくつかの前進は見られたが、2020年目標への道のりは、まだはるかに遠い」(ChemSec)
- 「これではICCM2というより、実質的にICCM1で、2006年のICCM1はまだPrepCom(\*)に過ぎなかった」(IPEN、NGO会議での発言)
- 「関係者はこれでICCM3までの期間の地ならしができたと賞賛し合った。・・・ICCM2はSAICMが真に世界の化学物質安全に寄与できることを示した。数名の参加者は、実際に進捗を評価するツールを持ち、2020年目標があと10年足らずの期間で到達可能範囲にあるかどうかを判断するICCM3(2012)こそが、真の正念場であることを述べている。」(Earth Negotiation Bulletin, Vol.15 No.175)
- 「いくつもの困難に直面し落胆させられはしたが、もし我々がそこにいなかったら・・・」(J.Degangi, Environment Health Fund)

(\*)PrepCom: SAICM策定のために2003～2005年の間に3回開催された予備会合

# 5. 評価：世界は前進しているのか？-2



- SAICMが策定されてすでに3年経過
- どこまで前進したのか、把握もできず
- ICCM2でようやく体制を整備
- 地域、国内行動計画の策定は？
- 目標年の2020年まであと10年！

## 6. 2020年に向けて

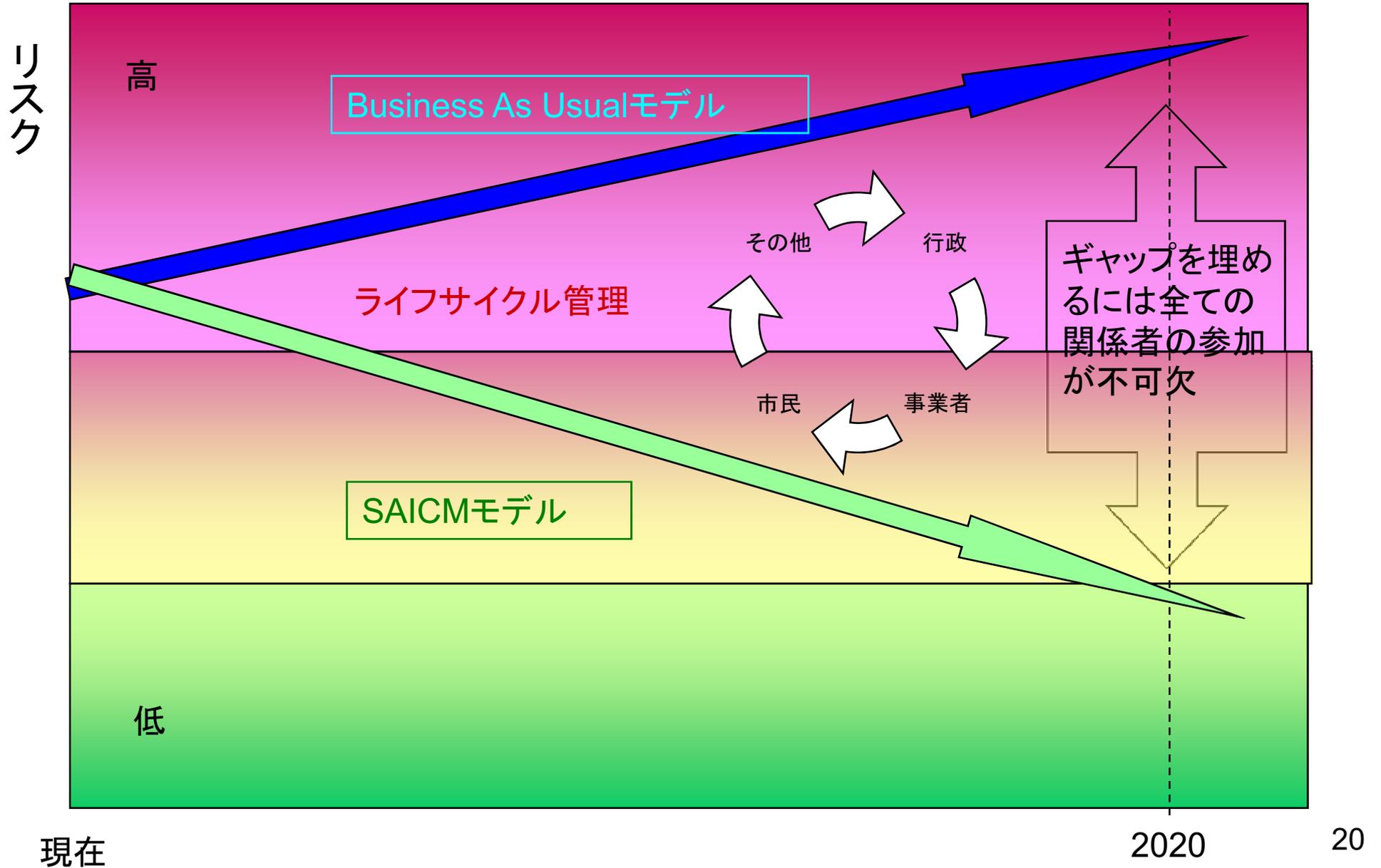
- 国は？

「我が国は、化学物質管理のための国際協調に積極的に関与していくこととしており、ICCM2の副議長を務めた国として、アジア太平洋地域グループ 及び他地域グループ、事務局等と緊密に連携し、検討を促進するとともに、国内においてもSAICM国内実施計画の策定及びSAICMに位置づけられた各種 施策の着実な実施を進める。」(5/18環境省記者発表資料)

- 他のステークホルダーは？

市民、事業者、自治体、研究者……

# 7. おわりに: 2つのシナリオ



# SAICMは次世代に対する 私たちの最低限のつとめ



ご静聴ありがとうございました